



育ちの芽

副園長 奥村 綾

～生活発表会に向けて～

本園の生活発表会は、例年『劇』『合奏』『歌』を行っていて、毎年この時期には、子ども達の意見も取り入れながら、教師主導で劇や合奏の導入を行い、発表会に向けて取り組んでいました。

今年度は、各行事を子ども主体で進めてきた中、今までのように生活発表会のために歌や合奏、劇のセリフを練習することに違和感を覚えました。そこで、今年度の発表会は、普段子どもたちが大好きで歌っている歌や、いろいろな活動を通して得たことなど、クラスらしさを表現する場として捉え、発表する内容についても子ども主体で考えて取り組んでいくことにしました。既に子ども達から発表会についての話が上がり、どのような内容にするか決めていっているクラスもあれば、別のことに夢中になっているクラスもあり様々です。

年少組では1学期より、動物になりきって表現遊びをしたり、音楽に合わせて身体を動かしたりして、様々な表現活動を行ってきました。また、いつでも触れられるように太鼓やタンブリンなどいろいろな楽器を保育室に置き、興味・関心が持てるようにしています。

そんな中、さくら組は、自分達でストーリーをアレンジして、表現遊びをしています。

つくし組では、お気に入りの絵本の「森のおふろごっこしたい!!」と子ども達からリクエストがあると、少しの時間でも取り入れています。

たんぼぼ組は、「先生音楽かけてー」とスズやタンブリン、マラカスを持って歌っています。

れんげ組は、しろぐみのコンサートを見てから刺激を受け、衣装や折り紙でステッキを作り、音楽に合わせてノリノリで踊る姿が見られます。

き組では、運動会が終わってすぐに、去年のことを覚えている子ども達が、すでに発表会の話をしていました。「ピアノがしたい」「カスタネットがしたい」「劇したい」「歌いっぱい歌いたい」と、話は盛り上がり、今では、クラス全員に誘い掛け、話し合いをする姿が見られます。

あか組は、いろいろな表現遊びをしている中、子ども達から『桃太郎』がしたいという声上がり、鬼退治に行くときの攻撃をみんな考えていると、「さるは噛む」「キジは羽でたたく」「犬は舐める」「最後に桃太郎が切る」という意見が出て、それぞれ登場人物になりきって表現を楽しんでいます。

あお組は、子ども達が思いついた役(警察、おばけ、プリンセス、ドラゴン、車掌さん、救急車など)の表現遊びが盛り上がり、少しずつ起承転結をつけた物語を楽しんでいます。

年長組は、どのクラスもまだまだ発表会モードにはなっていません。

しろ組は、ハロウィンの時に一部の子ども達がコンサートをしました。その時の反省点を踏まえ、今回はクラス全員で役割分担をして、クリスマスコンサートを開催しています。自分たちで歌いたい曲を選び、衣装を作ったりプログラムを考えたりして、うきうきタイム中に何回もコンサートを行っています。チケット

を持っていくと席に案内され、ステッキがいっぱい入ったかごを持って来て「曲に合わせてこれを振ってください。」と配ってくれます。お客さんがたくさんいる時には、少し照れながら踊っている姿も見られません。

みどり組は、宇宙に夢中です。宇宙について調べていくうちに、たくさんの子が家から図鑑を持ってきて、惑星の名前を覚えたり、月が見えた時には、形を報告し合ったりしています。そんな中、『プラネタリウムが観たい』という話になり、職員室で道順や交通費などを調べ、みどり組のみんなで観に行くにはどうしたらいいかの話し合いでもちきりです。

すみれ組は、長期欠席をしていた友達が、子どもカーニバルに来られなかったので『ぷぷっとたまいれ』のゲームを作って、本人リクエストのバナナジュースのお店を開き、カーニバルごっこをしようという話になりました。動物村もしてあげようと、「私の家から猫連れてくるから〇〇くんハムスター連れて来て!!」と言っていたのですが、猫は家の外に出したことがないし、ハムスターは連れて来るのが嫌ということで、動物村は幼稚園にいる生き物(うさぎ、モルモット、かめ、ザリガニなど)で開催。『みんなでツムツム』のゲームも作って、映画を観ながらポップコーンも食べ、カーニバルごっこが盛り上がりました。

このように各クラス取り組んでいる活動も目的も違いますが、さまざまな活動を通して得たことや子ども達の成長した姿を、保護者の方に感じていただける場となるよう、今後のクラスの様子を見守りたいと思います。過程については次号の『育ちの芽』でお知らせします。

～アンケートへのご協力ありがとうございました～

先日は、子どもの育ちに関するアンケートにご協力いただきありがとうございました。約3割強の方が提出してくださいました。ご回答いただいたほとんどの方が、子ども主体の保育について共感でき、情報発信についても、以前よりもわかりやすく楽しみにしているというご意見でした。また、子どもの育ちについてもたくさん気づいて書いてくださいました。

- 中には、子ども主体の保育について理解はできるが、不安や疑問のある方や、厳しいご指摘もありました。
- ・席を決める時など上手く自分の意思が言えない子にとっては一人でいたり、好きなお友達と座れなかったりする場面が見られ心配。
 - ・活発な子にとってはどんどん自分を出せる場面が増えて良いが、引っ込み思案の子は置いてきぼりにされ、何もしないまま終わってしまっているのではないかと心配。
 - ・消極的な子どもに対しての対応が見えにくい。

など、自分の思いや家での姿がなかなか出せない子どもの様子を心配されている保護者の方の気持ちも十分伝わりました。先生達は、出来るだけ一人ひとりに合わせた対応や見守りをしていること、また、時には、話し合うメンバーの組み合わせを意図的に変えたり、それぞれが自己発揮できる場を与えたりしながら、経験や積み重ねにより、その子なりに少しずつ成長し自分を発揮できるようになっていることなどを、十分に保護者の方に伝えきれていないことを実感しました。

他にも、ご意見ご要望もいただきましたので、参考にさせていただき、今後も子どもの育ちにとって必要な環境を整えていきたいと思っております。引き続きご理解ご協力よろしく申し上げます。